

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：土淵川の河川環境整備について		
水系／河川名：岩木川水系／土淵川	河川分類：都市河川	
河川の流域面積：38.5km ²	整備計画流量：75m ³ /s(W=1/50)	セグメント：2
事業：環境整備	事業開始年度 平成7年度	
目標設定：なし	段階：A(フィードバック時)	
課題・目的(主な)：水際域の保全・再生・創出、水辺へのアクセス改善		
工法(主な)：引堤、護岸整備、魚道、落差工、帯工等の整備、階段工の整備、管理用道路の整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、歴史・文化への配慮		

背景・課題、目標設定

<背景>

かつて土淵川は農業用水はもちろん、運河としても利用されるなど、古くから人々と密接な関わりをもっていた。昭和50年8月、昭和52年8月に度重なる大災害に見舞われ、これを契機として、災害復旧助成事業等を実施し治水安全度は飛躍的に向上したが、河岸のほとんどが1:0.5勾配のコンクリート護岸に覆われ、人々が水辺へ近づき川と親むことができる場所が少なくなってしまった。このことから、平成7年から平成24年にかけて、河川再生事業と総合流域防災事業(かわまちづくり)により環境整備を実施したものである。

<目標>

周辺に学校や住宅地、商業地区に近接している区間であることから、弘前市の進めるまちづくりと連携しながら水辺空間とまち空間の融合を図り、地域住民の憩いの場としての水辺、生態保全・観察といった水とふれあえる空間創出を目的とし、整備を進めた。

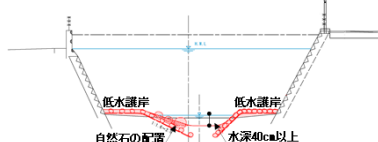
取り組み内容・対策例

<河川再生事業(第一期整備)>



- ・川幅を拡幅し、右岸側の勾配を1:2.0以上の緩い勾配とした。
- ・低水路には散策路を設けた。
- ・低水護岸は自然石による石張工や木製枠工とし、河床部に置き石や水制を配置し、川幅や流速を変化を持たせた。

<総合流域防災事業(第二期整備)>



- ・商業地や住宅と近接していることから既設護岸を兩岸とも活かし、生息する魚の移動に配慮し、平水時の水位40cm以上確保できるように低水路幅を狭めた。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<整備後の状況>

- ・河床部に配置された置き石や水制により瀬淵が形成され、流速や水深に緩急が生まれている。
- ・低々水路を設け低水路幅を狭めたことにより、低水部が植生に覆われ、多様な生物が生息できる水辺環境が創出されている。
- ・弘前市では、市民が観光客が整備区間周辺に点在する史跡や建造物を見学することができる回遊ルートを設定し、観光協会が主催するガイドコースに組み込まれている。

<今後の展望>

- ・今後もより一層、良好なまち空間としての一部として、地域の憩いや癒し空間としての活用が図られ、地域活性化や観光振興に繋がることを期待している。

整備前後の比較写真



利用状況



備考

問い合わせ先 青森県 県土整備部 河川砂防課
電話番号 017-734-8191